南山大学外国語学部英米学科主催
第 2 回英語オーラルインタープリテーションフェスティバル
実施要領

■主　催

南山大学外国語学部英米学科

■後　援

愛知県教育委員会，名古屋市教育委員会

■協　賛

株式会社紀伊國屋書店

■協　力

南山大学 English Speaking Society（E.S.S.），他，有志学生

■開催趣旨

1995 年に（旧）南山短期大学は高校生を対象とした第 1 回英語オーラルインタープリテーション大会を開催しました。以来この分野では全国唯一の大会として，東海 3 県をはじめ他県の中学生・高校生そして大学生も参加する大会となりました。2018 年度より本大会は，外国語学部英米学科の主催となったことを機に，コンテストではなくフェスティバル（合同発表会）として，生徒や学生の皆さんによる英語の表現発表をより広く募集することとなりました。本フェスティバルがこれまで以上に外国語教育に寄与し，新しい時代に生きる若人らに英知をもたらすことを願って止みません。

■日　時

2019 年 12 月 15 日（日）13 時開演（12 時 30 分開場），16 時終了予定

■会　場

南山大学 G 30 教室（入・退場自由，無料）
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18
アクセス http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/access.html（地下鉄名城線「八事日赤」駅より正門まで徒歩約 8 分）

■発表方法

英語で書かれた既存の作品を 2 名以上で読み上げる団体発表のみとします（個人発表はありません）。1 発表の制限時間は，5 分とします。

■応募資格

中学生，高校生，大学生および高専生など。国籍や海外体験の有無は問いません（資格に関して質問がある場合はお尋ねください）。

■応募方法・期間（変更がありますのでご注意ください）

① 2019 年 10 月 1 日（火）～15 日（火）の間に，メールにより参加希望（学校名，参加予定者数，担当者名，返信先アドレス）のみをお知らせください。参加可能組数は 20 組程度（1 校 1 組）を予定しております。お申込み学校数が大幅に 20 校を超過した場合，抽選により決定します。抽選結果は 10 月 18 日（金）に発表する予定です。(先着順ではございません。)
② 参加校が決定後，外国語学部ウェブサイトから応募フォームをダウンロードし，必要事項のご記入をお願いします。詳細は 11 月上旬にご案内致します。

■応募に際しての注意点とお願い

1．参加可能組数は、20 組程度(1 校 1 組)の予定です。万が一、予定組数に満たない場合は、各校に複数組参加の希望を募ります。

2．複数校で１つの団体とすることや，学校種別（中・高）を超え，中学生と高校生の混合の団体参加も可能です。お考えの場合はご相談ください。
3．参加者による創作・編集・翻訳などの作品は不可です。原著の縮約版などは可能ですが，必ずその旨をお知らせください。作品選びにお困りの場合は，何なりとお問い合わせください。
4．制限時間を超えた発表は全体の進行に影響が出ます。参加の皆様にご迷惑をおかけすることになりますので，皆様のご理解とご配慮をお願いします。
5．演技中の様子や参加学校名は，本学入試広報関係資料や公式ホームページ，公式 Facebook，または報道機関により報道される可能性がありますので予めご了承ください。

■発表後コメント

フェスティバル（合同発表会）形式になりましたので，順位を決定することはありません。今後の外国語学習の参考にして頂きたく，発表後に担当者よりコメントやアドバイスを差し上げます。

■オーラルインタープリテーション（OI）発表について

【OI とは何か】
発表者が筆者の伝える内容を解釈し，筆者になり代わって声や表情，時には体や手に持つスクリプト自体も利用して，聴衆にそのメッセージを伝えるものです。演劇とは違い，発表者は聴衆に向かって話しかけます。演劇のようにステージ上で互いの顔を見て話すことはなく，話す相手は前方の聴衆の方にいるという想像をします。原則として，衣装や大道具・小道具，照明，効果音などは使用しません。本学では，「イス」として使用できる黒の箱状のものを用意しますので，適宜お使いください。

【練習上のアドバイス】
1. この方法による音読は，原文解釈に重点を置きます。筆者に代わって聴衆とコミュニケーションをとろうとすると，作品に込められたメッセージをきちんと読解しなければなりません。発表者には言外の意味を含めた深い読解

が求められます。
2. 発表の際には，声の大きさ，読む速さ，声の質，感情表現に注意します。前に述べたメッセージを伝えるためには，プロソディー（発音・抑揚・リズムなど音声面）の確かさは欠かせません。
3. ジェスチャーを用い，表情や顔の向き，視線の方向にも気を配ります。必要に応じて，話の内容に呼応した動きがあると良いかもしれません。ただし内容にふさわしいものかどうかを考えるのも大切です。
4. 暗記の再現を目指す発表より，音読しながら聴衆に伝えるという姿勢が好ましいでしょう。スクリプトは黒色などの台紙に貼り，持って登場しても構いません。発表者の立つ位置を決め，他の発表者との連携にも注意します。
5. マイクロフォンは用いません。普段から十分に聞こえる声量かどうか気を配りましょう。内容に即した声量のコントロールが重要です。

■ご案内

出場の有無にかかわらず，本学担当者が南山大学または貴校にて，生徒さんに OI プレゼンテーションをすることが可能です。どうぞお気軽にお問い合せ下さい。本学会場の場合は随時調整しますが，出張の場合は，申し込み順にて承り，原則 9 月上旬までとします。お引き受けできない場合もありますので，予めご了承ください。

■お問い合せ

外国語学部英米学科合同研究室
電話：052-832-3111　内線 3630（平日 10 時～17 時）
E メール：dpt-eibei@nanzan-u.ac.jp